

日野市立教育センター一報

# 教育センターだより



第39号 平成28年7月15日発行

日野市立教育センター

○ 日野市立教育センター

191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

代表電話 042-592-0505

Fax 042-592-1148

午前8時30分から午後5時15分

URL: [www.hino-tky.ed.jp./center/](http://www.hino-tky.ed.jp./center/)

○ わかば教室

〒191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

直通電話 042-592-0863

午前8時45分から午後4時



## 現場の実践を支える教育センターに

所長 松澤 茂久

日野市は今年2月「学びと育ちの日野ビジョン（日野市総合教育大綱）を策定しましたが、そこには「郷土日野を愛し、『人・もの・こと』とのかかわりの中で自ら学び、未来を拓くひのっ子を育てる」ことが掲げられています。また、教育委員会では昨年度「学ぶ力向上委員会」を発足させ、「21世紀を切りひらくひのっ子に必要な学ぶ力とは何か」を検討し、教員・学校現場発の新たな日野市の学びを創造しようとしています。当教育センターは今までも「教育のまち日野」の「地域と共につくる基本と先進の教育」の一翼を担う機関としての自負をもって活動してまいりましたが、こうした市や学校現場の新たな時代に向けた動きの中で、共に連携して果たすべき役割は依然として大きいものと思っています。

一方で、退職教員の学校での再任用が当たり前の時代になって、当センターも人員減という難問に直面しており、現在、市・教育委員会とも図りながら新たな組織づくりを進めているところです。しばらくの間運営面で一層の工夫・努力を続ける必要がありますが、こういう時こそ組織の真価が問われるものと思います。今までの実績を踏まえ、やるべきことを着実に実行して、「現場の実践を支える教育センター」であり続けたいと願っています。

平成28年度も以下の3事業を実施し、より充実した活動となりますよう所員一同、力を合わせてまいりますのでご支援をよろしくお願いいたします。

調査研究部門では、本年度も、学校現場や関係機関等と連携しつつ、よりよい授業実践や教材開発ができるよう、「理科教育」、「郷土教育」の研究に継続して取り組みます。また、「ひのっ子教育21開発委員会」の研究(今年度は、外国語「ALTの拡大配置及び活用に関する研究」及び「教科化に向けた道徳の授業開発」)を補佐します。

研修部門では、教育センターの専門スタッフの力を活かして、若手教員（1・2・3年次）について実際の授業に即した個別指導を行い、授業力向上の力添えをします。その際には「授業観察のためのガイドライン」に沿って学校と共通認識で指導に当たります。また、教育委員会が実施する各種教員研修が円滑に実施できるように協力していきます。

相談部門は「学校生活相談」と適応指導教室「わかば」の運営があります。前者では学校生活上の問題、不登校に関する事などで悩み・課題を抱える子どもたちの相談や支援、資料提供を行います。わかば教室では、不登校の子どもたちの学ぶ場としてeラーニングを含め、子どもたちの実情に即して学習や進路等を一緒に考え支援していきます。また、登校支援コーディネーターが「発達・教育支援センター」のスクールソーシャルワーカーと連携して登校支援を行います。

教育センターの事業内容については、webサイトでの紹介に加え「教育センターだより」、「教育センター紀要」、「郷土日野指導事例集」などの刊行物も発行していますので、ご一読いただければ幸いです。

# I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」の推進、日野市教育委員会事業「ひのっ子教育21開発委員会研究」の支援を関係機関のご協力の下、進めています。以下、年間計画のあらましをお知らせします。

## 1 理科教育推進の研究 (理科教育推進研究委員会)

教科等教育係

### ひのっ子が主体となる理科授業を目指して

本委員会は、『自然や事物とのかかわりの中で自ら考えようとする子供を育てるため、教員の指導力向上と魅力ある理科授業を目指し、「理科教育コーディネーター」を中心に、学校・教員をサポートする「理科支援センター」の在り方について実践研究する。また授業実践を通し日野の自然についての教材化を推進する。』を主旨として研究を進めます。

日野市教育委員会の平成28年度の主要な取り組みから理科教育に関する項目を抜粋すると、

- ・ 基本方針1では、「21世紀を切りひらく力」として、自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決する確かな学力の育成とし、理科教育の充実
- ・ 基本方針2では、「次世代をつくる特色ある学校づくり」の取り組みとして、幼保小中高による連携を生かした教育の推進
- ・ 基本方針3では、体験を充実と学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」の推進として、自然に触れる豊かな体験や地域の自然の教材化・・・です。

以上を踏まえ、本年度は研究テーマを「ひのっ子が主体となる理科授業」としました。

#### (1) 研究の目的

##### ① 学校や教員が行う理科教育への支援

- ・ 理科学習への教員支援 ・教材・教具等の提供や貸出 ・理科に関する情報の収集・発信
- ・ ICTを活用した授業の推進 ・理科に関する事業の実施 ・幼小・中教研との連携

##### ② 研修の充実を通した理科の授業力指導力向上

- ・ 理科ワークショップ充実のための支援 ・各種研修会への協力

##### ③ 諸機関との連携と日野の自然の教材化

- ・ 諸機関を活用した理科教育の推進 ・日野の自然の掘り起こしと自然の教材化の推進

#### (2) 研究の方法

##### ① 学校や教員が行なう理科学習への理科支援センターの支援のあり方を実践的に検討する。

##### ② 子どもが主体的に活動する理科授業を目指し、研修内容等を検討し、研修を支援する。

##### ③ 諸機関との連携や日野の自然の教材化を推進する。

#### (3) 組織・運営

委員長・副委員長：小・中学校校長会代表者

委員：小・中学校副校長会代表者、理科教育の有識者、理科ワークショップ専属支援員、理科ワークショップ講師、幼小・中教研理科部長及び部長経験者、理科担当指導主事、教育センター理科教育コーディネーター

#### (4) 活動日程

##### ① 理科教育推進研究委員会・・・年間5回開催を予定

##### ② 研修会等 ・理科ワークショップは月一回実施

- ・ 6月 8日(水) 午後：幼小・中教研理科部連携研究会(小学校で授業)
- ・ 8月24日(水) 午前：理科実技研修・・・初任者の課題研修として
- ・ 8月26日(金) 全日：動物の観察、昆虫スキルアップ研修:多摩動物公園
- ・ 8月29日(月) 午前：理科実技研修:(株)富士電機 「電磁石」を中心に
- ・ 9月 7日(水) 午後：幼小・中教研理科部連携研究会(中学校で授業)

## 2 郷土教育推進の研究 (郷土教育推進研究委員会)

ふるさと教育係

### 「日野の自然・歴史・文化・産業・人を用いた授業づくり」

日野市は「緑と清流のまち 日野」「新選組のふるさと 日野」「芸術・文化の薫るまち 日野」「教育のまち 日野」等のキャッチフレーズがあります。このキャッチフレーズは、豊かな自然・歴史・文化、そして人材に恵まれた日野市の特色を的確に表現しています。この日野で生まれ育ったことを自信と誇りにできる日野を愛する「ひのっ子」を育成し、将来の日野を背負って立つ「日野人」の育成へとつなげていくことが日野市、日野の教育の大きな課題となっています。

郷土教育推進研究委員会では、以上の課題を解決するために、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成に取り組んでいます。研究の成果を毎年、「郷土日野」指導事例集としてまとめて発行してきました。今後、郷土教材が、ますます小・中学校の授業に活かされるように、今年度は授業を中心とする研究を進めふるさと教育の内容の活性化を図って参ります。

#### (1) 目的

- ① 郷土日野の自然・歴史・文化・産業・人に親しみ、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成する
- ② 郷土教育の取り組みを指導事例集としてまとめ、その成果を各幼・小・中学校や各博物館・図書館等の関係機関で積極的に活用されるよう普及・啓発活動を進める
- ③ 教職員対象の研修会で郷土のフィールドワークや実践事例の発表会を実施し、郷土教育を実践できる指導力ある教員を育成する

#### (2) 内容・方法

- ① 日々の授業で活用できる郷土教材を収集・開発する
- ② 各幼稚園・小学校で実践できる指導計画を作成し授業実践を行う
- ③ 教職員対象のフィールドワークや実践事例発表会を開催する
- ④ 以上の実践は、学校が博物館・図書館等関係機関と連携・協力して行う
- ⑤ 郷土教材や実践事例を「郷土日野」指導事例集にまとめる

#### (3) 組織・運営

委員長：小学校長 1名 副委員長：小学校副校長 1名

委員：各小学校教員 11名、郷土資料館：1名、中央図書館：1名、新選組のふるさと歴史館：1名、学識経験者：3名、事務局：指導主事 1名、教育センター所員 2名 計 22名

## 3 ひのっ子教育21開発委員会

基礎調査研究係

### ○ 外国語活動・英語 「ALTを活用した魅力ある授業づくりプロジェクトの研究」

#### (1) 主旨

学習指導要領では、児童・生徒が主体的に学び、生きる力の育成、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランス、言語活動の充実などが求められています。

日野市教育委員会では、平成24年度から、魅力ある授業力プロジェクトを立ち上げ、感じ、考え、表現するひのっ子が育つ、魅力ある授業の創造を目指しています。今年度のひのっ子教育21開発委員会（外国語活動・英語）は、昨年度の研究内容を、日野市全体に発展させるべく、「外国語活動・外国語（英語）科

における魅力ある授業づくりプロジェクト」として、研究に取り組むことになりました。

## (2) 研究の内容

次期学習指導要領改訂を見据え、小中高連携を図り、ひのっ子の学習意欲の向上と、基礎的・基本的な知識・技能の定着、思考力、判断力、表現力等を育成する魅力ある授業づくりを目指し、ALTを活用したより良い授業モデルを提案していきます。また、東京都教育委員会は、小学校英語教科化を踏まえ、都内全公立小学校における英語教育の充実に資することを趣旨に、「平成28・29年度英語教育推進地域事業」を策定し、都内10地域を英語教育推進地域として指定しました。日野市は、英語教育推進地域として、「ALTの拡大配置及び効果的な活用に関する研究」の指定を受けています。

## (3) 研究の方法

日野市公立小学校・中学校、市内都立高校から、選出された教員が、英語の授業実践を通して、魅力ある授業づくりの研究開発を昨年度から2年間で実施しています。その成果を、市内の小・中・高等学校の児童・生徒の学力向上に役立てます。

## (4) 組織

担当管理職 小学校校長 1名、 中学校校長 1名、小学校副校長 1名、 中学校副校長 1名  
開発委員 小学校教員 17名、中学校教員 8名、高等学校教員 2名  
事務局 指導主事1名 教育センター所員1名 計 33名

## ○ 道徳 「特別の教科 道徳」を踏まえた「日野の道徳」創造プロジェクト

### (1) 主旨

21世紀を切りひらくひのっ子を育成するための道徳教育はどうあればよいのか、道徳の授業をどのように行えばよいのかを研究し、市内小中学校の道徳教育の充実のための情報を提供します。

### (2) 研究の内容

小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から実施となる「特別の教科 道徳」の学習指導要領を研鑽し、進めます。また、本市における児童・生徒の道徳性や道徳の授業に対する意識を調査し、指導上の課題を明らかにします。

- 「考え、議論する」「問題解決的」授業のための指導方法と評価方法について
- 児童・生徒の「道徳性」及び「道徳の授業に対する意識」に関する実態調査
- 学習を充実させるための郷土教材の開発
- 「校内組織」「校内における研修」「道徳教育計画」のモデル作成及び、「家庭・地域との効果的な連携」に関する提言

### (3) 研究の方法

日野市総合教育大綱、第2次日野市学校教育基本構想の内容と深く関連する、道徳科の内容項目「生命の尊さ」及び「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を中心にして、教育実践や検証授業を通じて研究を行います。

### (4) 組織

担当管理職 小学校長 1名 小学校副校長 1名 中学校副校長 1名  
開発委員 小学校教員 8名 中学校教員 4名  
事務局 指導主事 1名 教育センター所員 1名 全17名

## Ⅱ 研 修 部

### 1 教員の研修

#### 教職員研修係

#### (1) 若手教員育成研修

##### ① 1年次若手教員（小学校21名、中学校22名 計43名）

年3回、初任者のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。指導の観点には、学習指導案が適切に作成されているか、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどの点で、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたります。1年目の教員として身につけるべき基礎的・基本的な知識・技能の習得を行うべく、指導、助言を行っていきます。



##### ② 2年次及び3年次若手教員（2年次 小13名、中14名計27名 3年次 小17名、中6名 計23名）

年1回、2年次及び3年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。2年次教員に対して担当所員は、1年次における研修の成果と課題を踏まえ、授業評価を通して、改善策等を具体的に指導していきます。教科指導における生活指導のありかたにも触れ、より実践的な指導力をつけるためのアドバイスもしていきます。



3年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行うように、そして、児童・生徒の疑問や要求にも多面的に対応できる力をつけていけるようアドバイスをしていきます。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導助言にあたっていきます。

##### ③ 夏季研修（2年次・3年次）

8月25日に日野第一中学校を会場にして2年次が午前、3年次が午後と、半日単位で若手教員育成研修が開催される予定です。研修会では、2年次教員、3年次教員ともにグループに分かれ、各自が一学期に実践した指導事例を発表し、授業展開の方法や教材教具の工夫、改善すべき課題等についてグループ協議を行い、授業改善につながる魅力ある授業づくりを目指します。

担当所員は、午前と午後の一日、グループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行います。

#### (2) 教育委員会主催研修会への協力

教育委員会が主催する研修会で、主に教育センターで行われる研修会や夏季休業中に市民会館で開催される教科専門研修（小・中学校の全教員対象）の受付等の準備を行います。

また、夏季休業中に実施される人権教育、外国語活動、特別支援教育、理科実技、昆虫スキルアップ、郷土教育、教育相談の各研修会にも支援業務を行います。

### Ⅲ 相 談 部

### 学校生活相談係【適応指導教室(わかば教室)】

日野市立教育センターの相談部は、学校生活相談係が「適応指導教室(わかば教室)」の運営と「学校生活相談(主に長期欠席・不登校の児童・生徒について)」を行っています。

#### 1 学校生活相談

学校生活相談係は、児童・生徒の長期欠席・不登校〔主な内容：学校生活における精神的な悩み、人間関係でのストレス、登校しぶり、児童・生徒の心理的、又は環境をめぐる問題等〕に関しての相談や支援・助言を行います。具体的な活動は次の通りです。

##### (1) 相談活動

学校生活上の問題や不登校に関する相談、「適応指導教室(わかば教室)」に通室している児童・生徒への計画的・継続的な個別面談を実施する

##### (2) 「適応指導教室(わかば教室)」=以下(わかば教室) 通室児童・生徒への支援

安心して過ごせる学びの場(居場所)づくり、及び児童・生徒に応じた体験活動や学習活動の支援を通して、社会的自立や基礎学力の定着を図り学校復帰への支援を行なう

##### (3) 登校支援

学校訪問(年1回以上)、学校及び保護者との相談(随時)を実施する

##### (4) 学校・家庭・地域との連携

適応指導教室連絡会、通室状況報告の送付、保護者面談・保護者会・授業参観、わかば通信の発行、地域ネットワーク連絡会、スクールカウンセラー連絡会、地域を生かした体験活動

#### ◇ 指導・支援スタッフ

教育センター所員2名、カウンセラー2名(毎日1名、週5日)、指導員4名のスタッフで業務に当たっています。「わかば教室」の学習・行事・生活全般にわたって、学生ボランティアの協力があります。「わかば教室」は、通室する児童・生徒が安定した心理状況で過ごせる居場所であり、学びの場であり、学校復帰を目指す場であるように努めます。そのうえで好ましい人間関係、集団への適応能力、学習への意欲、基礎学力定着、社会性や自立心の育成を目指し、個別あるいは少人数による指導・支援をします。

※ ご相談は、電話 042-592-0863(時間 午前8時45分～午後4時00分) へお願いします。

#### ◇ 「わかば教室」の一日

朝の会(9:20)で始まり、学習タイム(国語・社会・算数・数学・理科・英語・eラーニングを中心に個に応じた学習指導)、わかばタイム(曜日毎に、作文・スポーツ・図工・栽培・音楽)、ミーティング、SSTの時間割を組んで実施し、時間割内で個別面接(計画的・継続的なカウンセリング)を実施し、帰りの会(小14:15、中14:35)で終わります。

週1回スタッフで子供一人一人の状況の情報交換・支援の検討を行い、指導・支援に役立てています。

#### ◇ 「わかば教室」の行事

遠足、お茶会、誕生日会、スポーツ大会、収穫祭、夏休みの通室日及び補習日、地域の奉仕活動(老人ホーム訪問等)、社会科見学、図書館訪問、音楽鑑賞教室、音楽会、書初め、卒業・進級を祝う会の行事や体験活動を実施しています。

これらの行事を通して、自らの良さや存在の大切さへの気づきの学習や、定期的に行うカウンセリングで情緒を安定させ、子供たちが自信を取り戻すことができるように支援しています。



お茶会(お茶の先生の茶室で)

#### 2 不登校児童・生徒への学習支援：eラーニング」を活用した学習支援

今年度は、主に二つのことを目標に、eラーニング「ひのっ子学習システム」を活用して学習支援の充実を図ります。

(1) 「わかば教室」に通室している児童・生徒のための学習支援：eラーニング

わかば教室に通室している児童・生徒に対して、わかば教室の学習活動時間を利用し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図ります。

\* 内容

- ・ 学習時間：固定時間割 月：学習タイム1→小学生 学習タイム2→中学生  
水：学習タイム1→小学生 学習タイム2→中学生
- ・ 活動場所：教育センター2階パソコン室

※ わかば教室見学者は、eラーニング学習時間（月曜日・水曜日）に体験学習することが可能です。事前に時間などわかば教室を通してeラーニング担当者に確認してください。

(2) わかば教室に通室できない児童・生徒のための学習支援：eラーニング

さまざまな理由からわかば教室にも通室できず、長期間欠席状況にある、又はそのような傾向にある児童・生徒に対して、居場所（わかば教室eラーニング学習室〔教育センター3階〕）で学習できる機会を設定し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図ります。

\* 内容

- ・ 学習時間：水曜日（わかば教室通室生下校時間後 ☆ 午後2時～4時）
- ・ 活動場所：わかば教室eラーニング学習室（教育センター3階）

※事前に調整が必要です。学校を通してわかば教室登校支援員に確認してください。

### 3 不登校改善に向けて取組み

#### 登校支援コーディネーター

(1) 適応状況調査の活用

不登校問題の改善をめざす「日野サンライズプロジェクト」の提言を受けて、市内各小中学校では適応状況調査を実施しています。適応状況調査は、校内委員会での不登校の状況や学校の取組み等の検討を踏まえて各学校で作成し、教育委員会及び教育センター登校支援コーディネーターに報告されます。

登校支援コーディネーターは、適応状況調査の集約・分析を基に、毎月開催される定例の生活指導主任研修会をはじめ、関係機関との連携の機会を通じて、不登校改善に向けての情報提供に努めています。また、日野市発達・教育支援センター（エール）の教育相談担当カウンセラーやSSWへの情報提供を通して、関係機関同士との連携・協力ができるようにと考えてきました。

これからも、適応状況調査が不登校の改善に向けて活用されることを願っています。

(2) 不登校の改善に向けての取組み

① 近年の不登校の傾向

適応状況調査にみる不登校の理由をあげると、夜なかなか寝付けない、朝起きられないなど生活リズムの崩れによる体調不良を多く目にします。生活リズムの崩れをきたすものとして、深夜、あるいは明け方に至るまでのゲームやスマホ使用があります。その中には、ほとんど依存状態に入り込んでいるケースもあります。

② 改善のための環境づくり

不登校状態からの改善を図るためには、ゲームやスマホの使用を適切に管理して、生活リズムを回復させることが必要です。そのためには改善を図る本人自身の努力はもちろんですが、家庭や学校、専門機関の連携によって本人の努力を支える環境をつくるのが大切です。

登校支援コーディネーターとして、本年度は学校を中心とした関係機関の連携による改善のための環境づくりに取組んでいきたいと考えています。